

令和3年度

事業概要

(令和2年度実績)

山梨県立こころの発達総合支援センター

はじめに

“ここセン”と呼び習わされた“こころの発達総合支援センター”が、ここ住吉に移ってきて早くも1年半が過ぎようとしている。オープン間もなくから、折しもコロナ禍のまっただ中で、記念行事も軒並み中止となり、新センターを利用して施行されるはずだった事業も開始の目途が立たないままスタートを切ることになった。

こうした制約は、もちろん有り難いことではないが、新築になったとはいえまだ慣れない建物を利用し、また体制を一新しての業務が、思いの他のスロースタートになったことは、今にして思えば渦中にありながらも救われた側面であったのかもしれない。

新しい“ここセン”には、2つの大きな使命が課せられていた。その1つは長期化の一途をたどっていたサービス利用希望者の待機期間を、いかに縮小できるかだった。待機が1年近くにおよんだのでは、タイムリーなサービスを届けることは難しい。

外部からは見えにくい努力ではあるが、業務の流れを抜本的に見直し、新しい建物とともに新しいシステムでの稼働をスタートさせることで、この難問題をすべてとは言えないまでも、かなりの程度緩和できたものと考えている。

2つ目の使命は、新しく同居することになった他の機関との協調をどのように図るかである。児相とは以前から同じ建物の住人同士だったが、他の2つは全く新しく、これからすべてを造っていく施設である。施設の役割や目指すものが異なるとはいえ、利用する子どもたちの幸せを願うことには少しも変わりがない。それどころか役割がちがうほど、自分たちの組織でなければできない事の意味を、正面から考えることになるとうわかってきた。しかもそれをきちんと発信していかななくてはならない。

この2つの使命は、いかに他の諸機関と連携しながら、発達障害の人々の生きにくさを地域のなかで解消していくかを課題とするという点で通じ合っている。この課題こそが、待機期間問題を根本的に改善するカギになるし、プラザの中で最も“ここセン”を特徴づける発信となるからだ。このための取り組みとして、地域での支援者を育成する間接的な支援の方向に大きく舵を切っていこうとしている。

今年度は相原先生をプラザ全体の施設長にお迎えすることができ、施設間の結びつきはさらに強いものとなった。この豊かな環境の中で、さらに他機関や利用者からの信頼を得られるように、着実に歩みを進めていきたい。

山梨県立こころの発達総合支援センター

所長 田中 哲

目 次

第1部 こころの発達総合支援センターの概要

1 沿革	1
2 施設	2
3 組織図・職員構成	4
4 業務内容	5
5 利用の流れ	7

第2部 業務の実施状況

相談支援

1 相談支援体制	8
2 相談件数	8

診療

1 診療体制	12
2 診療状況	14
3 発達障害医療支援体制整備事業	17
4 ショートケア	17

地域支援

1 市町村療育支援開発事業	19
(1) 幼児集団療育	
(2) 学齢期集団療育	
(3) 成人期集団療育	
(4) ペアレントサポートプログラム	
(5) 養育者セミナー	
(6) ストレスマネジメント研修	
(7) 発達支援リーダー養成プログラム(発達支援リーダー養成研修)	
2 技術支援	28
(1) 関係者コンサルテーション	
(2) 市町村療育支援	
(3) 発達障害者支援センター連絡協議会	
(4) 地域支援体制サポート事業	
(5) 関係機関との連絡調整会議	
(6) 会議等への参加	

研修・普及

1	人材育成	3 2
	(1) 子どもの心の診療関係者の研修事業	
	(2) 発達障害研修事業	
	(3) 講師派遣	
2	調査研究	3 5
3	広報・普及	3 6
	(1) パンフレット等印刷物の発行	
	(2) 図書及び視聴覚機材の貸出	

第1部 こころの発達総合支援センターの概要

1 沿革

発達障害者支援法第14条及び第19条の規定に基づき、山梨県立こころの発達総合支援センター設置及び管理条例及び同施行規則により設置された。

平成17年4月1日 児童福祉施設や学校等において、被虐待児、発達障害児などによる処遇困難事例が増加する中、発達障害の診断・支援を行うことができる専門機関の設置を県に義務づける発達障害者支援法が施行された。

平成18年4月1日 中央児童相談所内に子どもメンタルクリニックが開設されるとともに、障害者相談所内に発達障害者支援センターが設置された。

平成22年1月～8月 子どもの心の問題・医療等の相談の拡充に伴い、クリニックの機能強化が望まれる中、幼児期から成人期に至るまでの相談・診断等を総合的かつ一体的に支援できる体制整備が求められた。これを受け、子どもメンタルクリニックと発達障害者支援センターの再編に向け、庁内検討会及びワーキンググループが設置された。

平成22年8月～12月 山梨県福祉プラザ改修工事

平成23年1月～3月 センターの開所準備

平成23年4月1日 子どもメンタルクリニックと発達障害者支援センターが統合され、山梨県立こころの発達総合支援センターとして開所。

令和2年4月1日 山梨県福祉プラザ内（甲府市北新）から山梨県子どものこころサポートプラザ内（甲府市住吉）へ移転。

2 施設

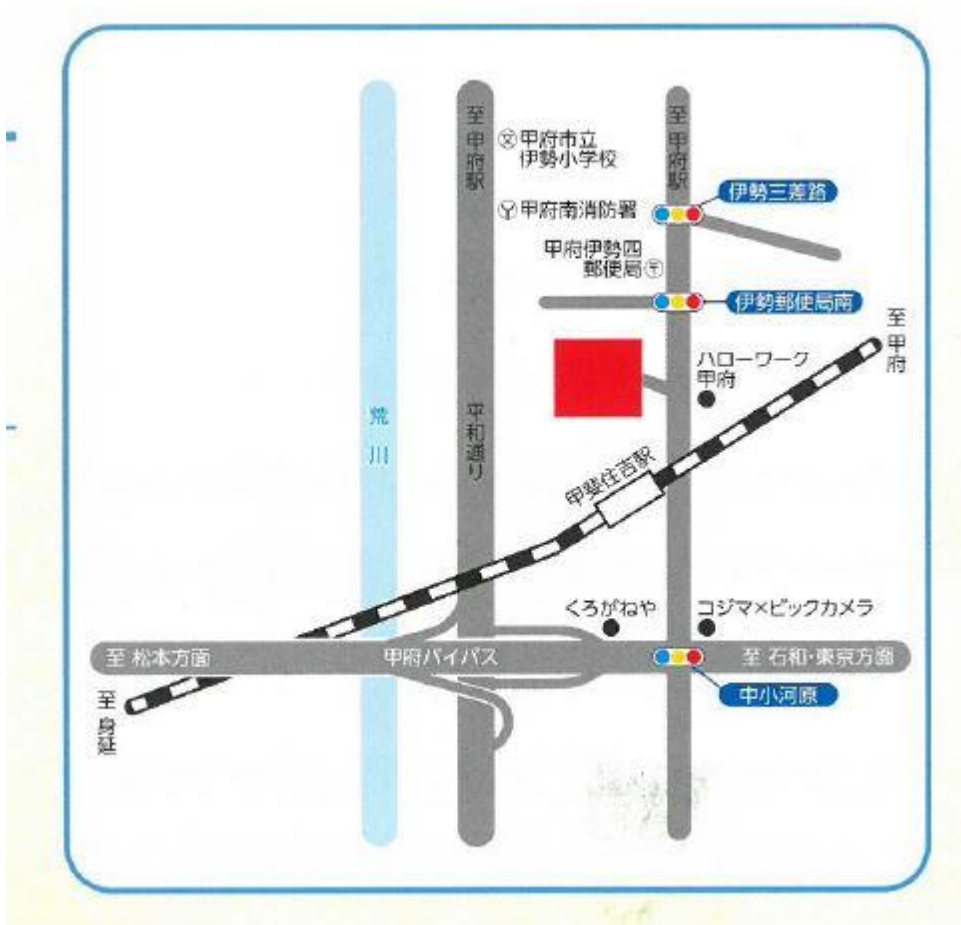
(1) 場所

山梨県甲府市住吉2丁目1番17号（子どものころサポートプラザ内）

(2) 建物

鉄筋コンクリート造 2階建

(3) 案内図



《電車》

JR 身延線「甲斐住吉駅」から徒歩3分

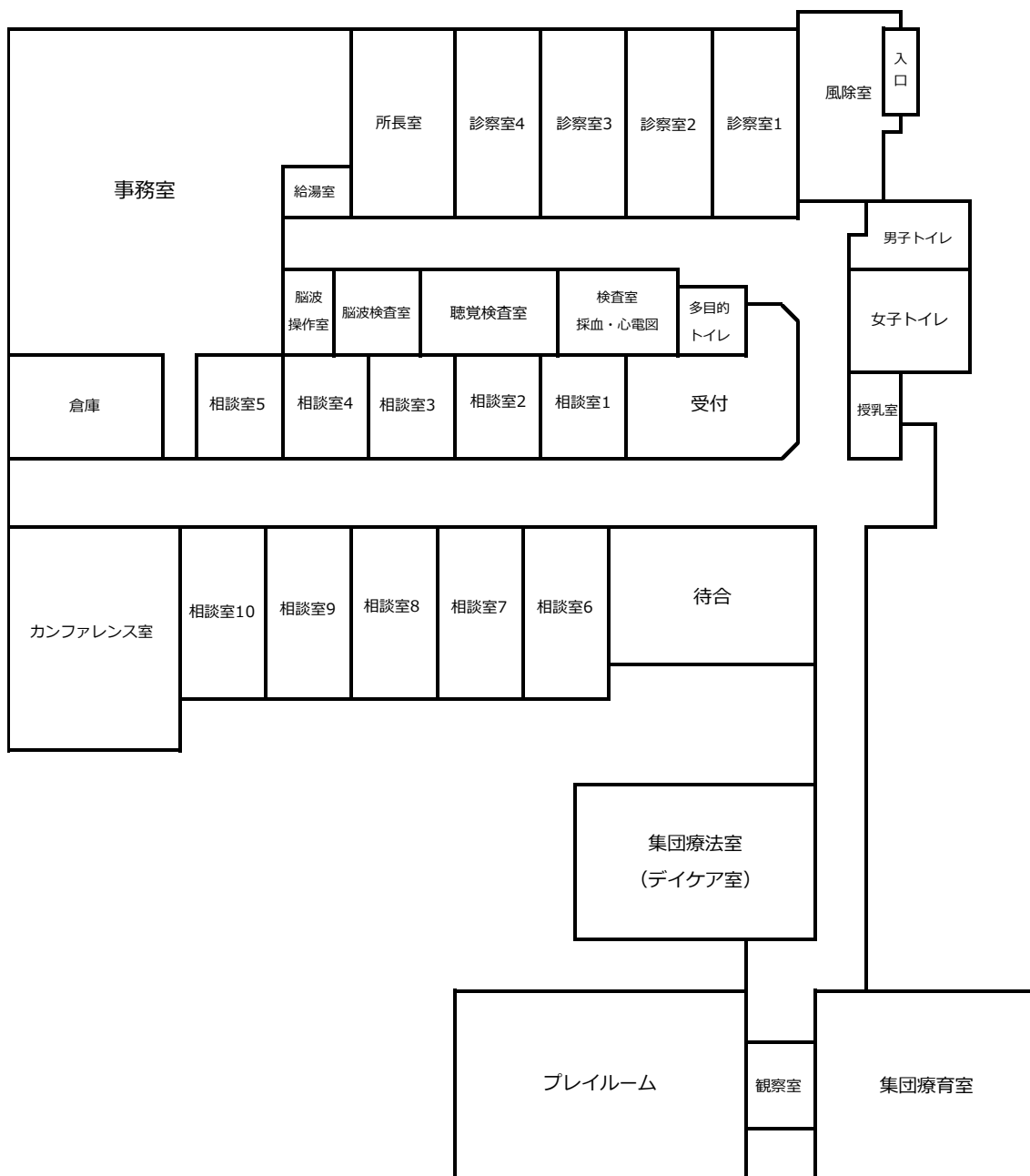
《バス》

甲府駅南口3番乗り場から「小瀬スポーツ公園行き」に乗車し、「甲府職業安定所」下車（約16分）、徒歩1分

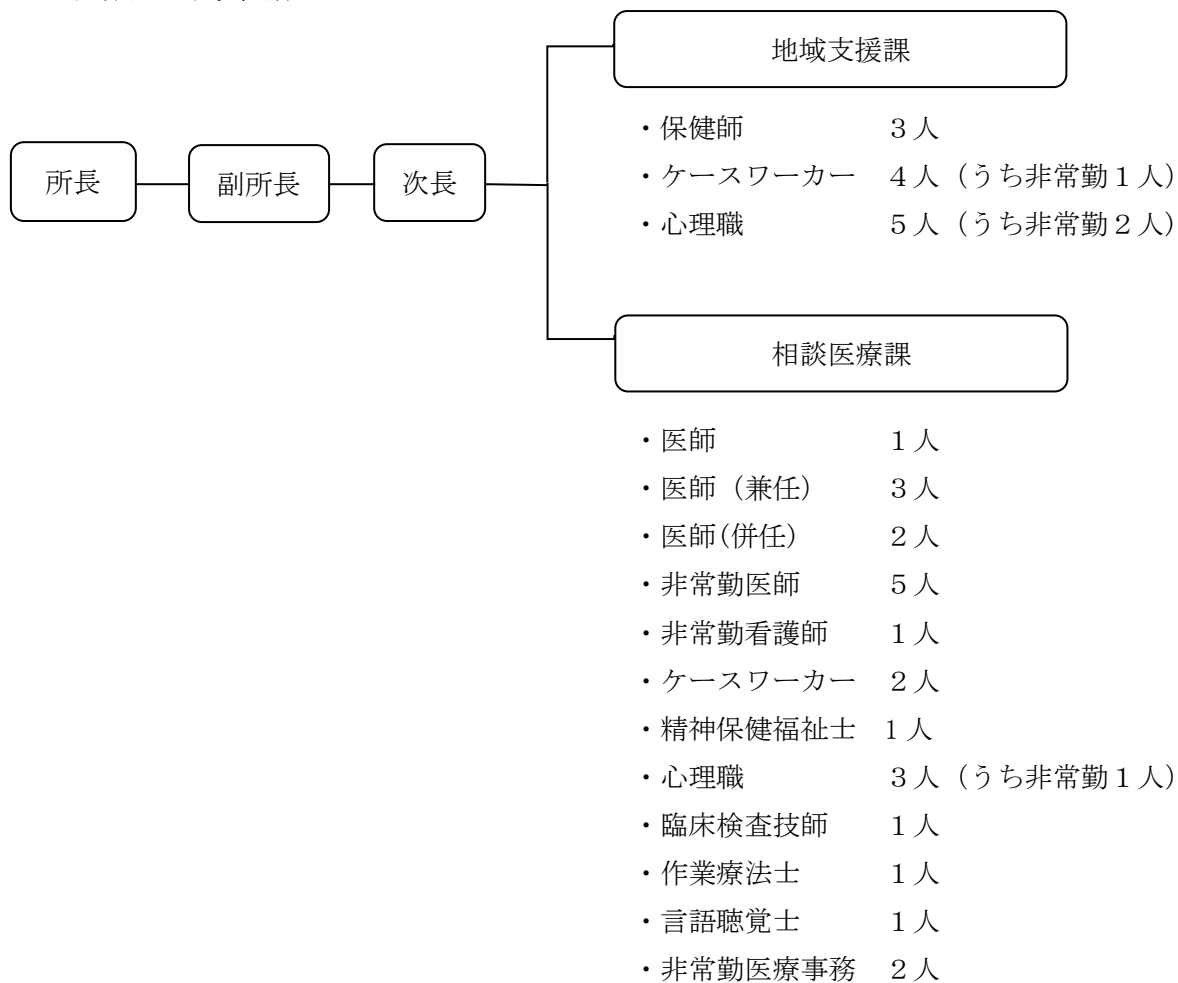
《車》

甲府バイパス（国道20号線）の「中小河原交差点」を甲斐市方面から左折（笛吹市方面から右折）し、約0.6km（約1分）

(4) 見取図



3 組織図・職員構成



4 業務内容

(1) 診療

子どもの心の問題や発達障害について、精神科等医師による診療を行う。

- ・診断：生育歴の聞き取り、本人・家族との面接、検査結果等の情報を合わせて、医師が総合的に判断する。
- ・治療：必要に応じて、薬物療法や心理療法を行う。
- ・検査：心理発達検査や血液検査、脳波検査、心電図検査、聴力検査等を適宜行う。
- ・ショートケア：心の問題により社会に適応しにくい子どもに対し、集団活動や余暇活動を行う。

〈 診療体制 〉

甲府クリニック 場 所 子どものこころサポートプラザ内
(こころの発達総合支援センター)

管 理 者 金重 紅美子

診療時間 午前9時30分から午後4時00分

	月	火	水	木	金
精神科					
田中 哲				○	
金重 紅美子	○		○		○
上村 拓治				○	
江間 彩子					○ (第2)
小児神経内科					
相原 正男		○ (第1・3)			
後藤 裕介	○		○		
加賀 佳美		○ (第1・3・5)		○	○ (第2・4)
反頭 智子			○ (第1)		
溝呂木 園子			○ (第2)		
大山 哲男			○ (第2)		
石井 佐綾香				○ (第3)	
青柳 閣郎				○ (第4)	

都留クリニック 場 所 南都留合同庁舎内
 管 理 者 金重 紅美子
 診療時間 午前9時30分から午後3時00分

	月	火	水	木	金
精神科					
金重 紅美子		○			

(2) 相談支援

本人や家族等からの相談に応じ、本人の特性や対処法を正しく理解できるように支援を行う。

- ・発達支援：本人の特性や対処法を理解し、適切な支援プログラムを提供する。
- ・就労支援：本人に適した就労を支援する。
- ・家族支援：支援プログラムを通じて、家族に対しても必要な知識や情報、悩みが共有できる場を提供する。

(3) 地域支援

本人や家族が身近な地域でより良い支援が受けられるよう、関係機関に対し助言や技術支援を行うとともに、地域における支援体制を整備する。

- ・関係者コンサルテーション：地域の支援者が抱える課題や問題に対して、助言や情報提供を行う。
- ・支援プログラムの開発・普及：ライフステージや発達の特性に応じた集団療育プログラムを開発し、啓発する。
- ・地域支援体制の整備：発達障害者地域支援マネージャーの配置や小児科医との連携等により、地域にける支援体制を整備する。

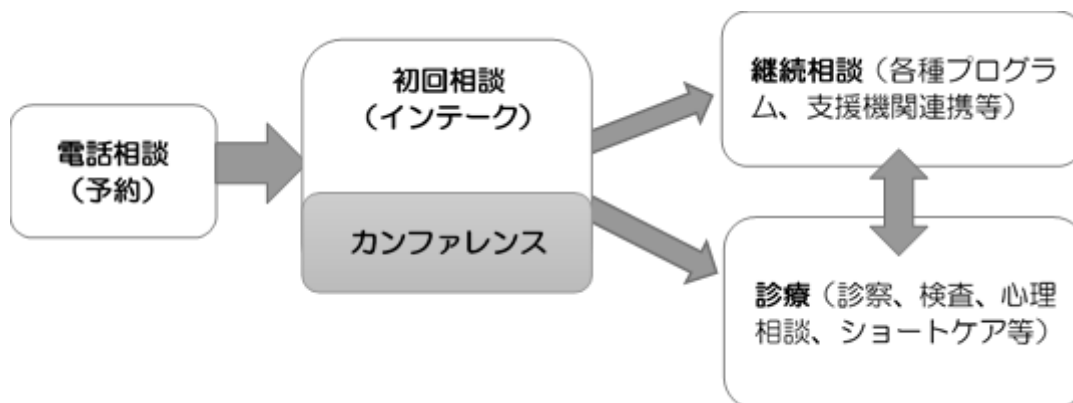
(4) 研修・普及

子どもの心の問題や発達障害に関する研修等を通じて、人材育成や発達障害に関する正しい理解の普及啓発に取り組むとともに、調査研究を進める。

- ・人材育成：当センター及び関係機関職員の専門性・対応力の向上につながる研修を開催する。
- ・研修・講習会の開催
- ・調査研究の実施

5 利用の流れ

本人または家族等からの電話にて相談を受け付ける。その後、当センター担当者からの電話等により、初回面接（インテーク）日を決める。来所による初回相談（インテーク）を行い、カンファレンスにより支援の方向付けを行った後、継続相談や診療に繋げる。



・対象

18歳未満の子どものこころと発達に関する相談全般及び成人の発達障害に関する相談を受け付けている。

・受付方法

相談・診療は完全予約制。本人または家族等からの電話で受け付ける。

・相談場所

子どものこころサポートプラザ内（月～金）

南都留合同庁舎内（診察：毎週火 相談：毎週火、第2・第4金）

富士ふれあいセンター内（第1・第3火）

・診察場所

（子どものこころサポートプラザ内）こころの発達総合支援センター甲府クリニック

（南都留合同庁舎内）こころの発達総合支援センター都留クリニック

・費用

相談は無料。診療・ショートケアは保険診療となる。

第2部 業務の実施状況

相談支援

1 相談支援体制

こころの問題を抱えた児童とその家族や発達障害児（者）とその家族に対して、相談支援、発達支援、就労支援及び情報提供を行うとともに、支援関係者に対して助言やコンサルテーションを通じた支援を行った。

相談は予約制とし、山梨県子どものこころサポートプラザ内（こころの発達総合支援センター）、南都留合同庁舎内、富士ふれあいセンター内で実施した。

2 相談件数

令和2年度の相談件数は4,299件で、このうち新規面接相談は392件であった。

(1) 相談者数

(単位：件)

電話	来所			訪問	関係者コンサルテーション	合計
	甲府	都留	ふれあい			
993	2,504	213	63	76	450	4,299

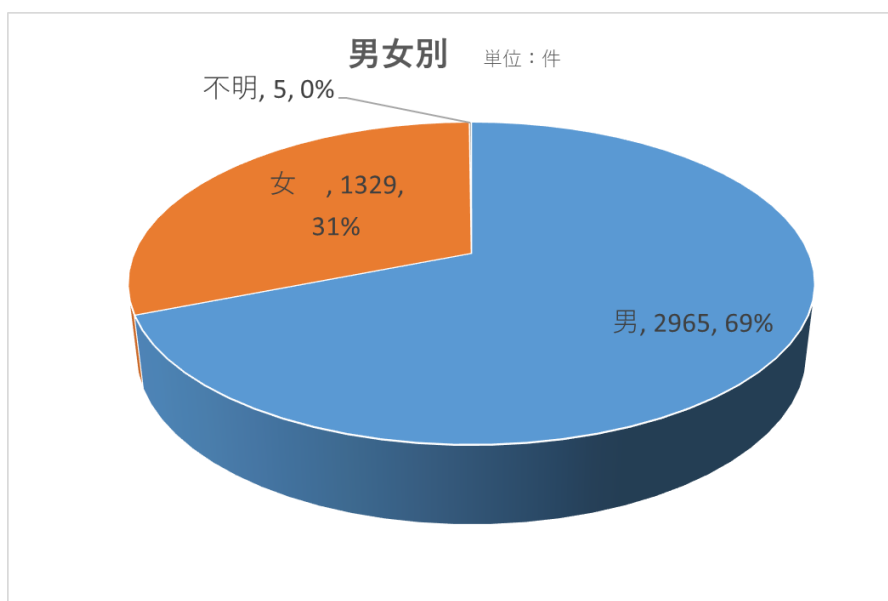
(2) ケース別

(単位：件)

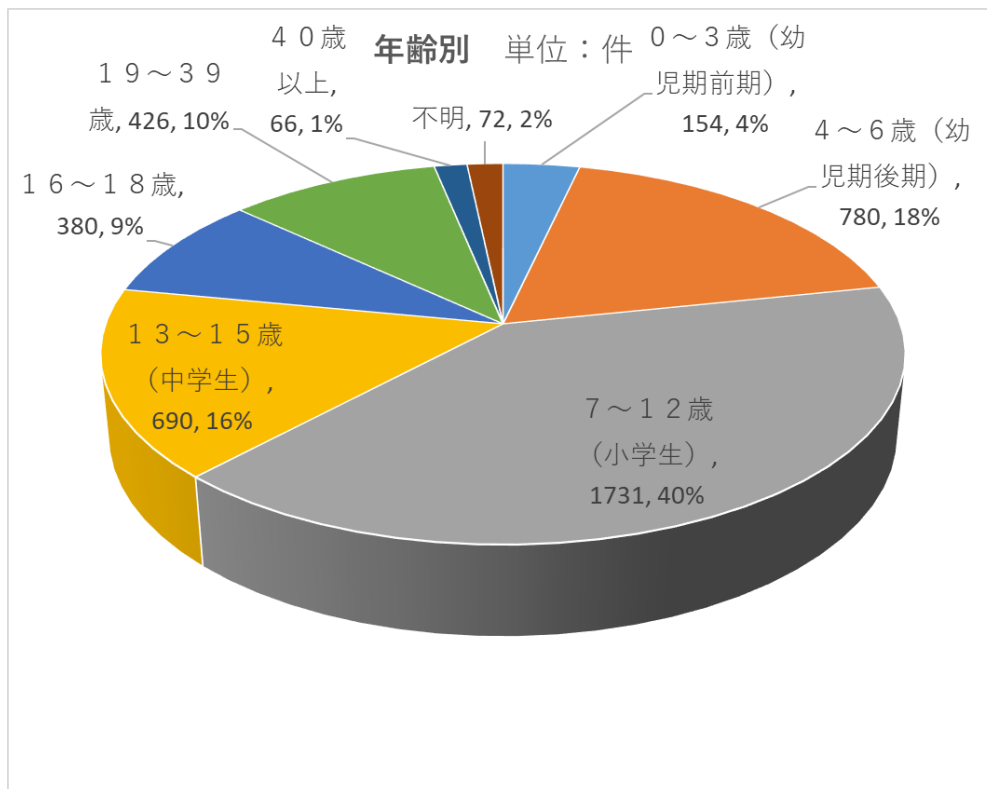
発達障害ケース	子どものこころケース*
3,654	645

*発達障害や発達の問題に関わる相談以外のケース
(発達以外の相談であっても発達障害、あるいは発達の問題があるケースはここには含まない)

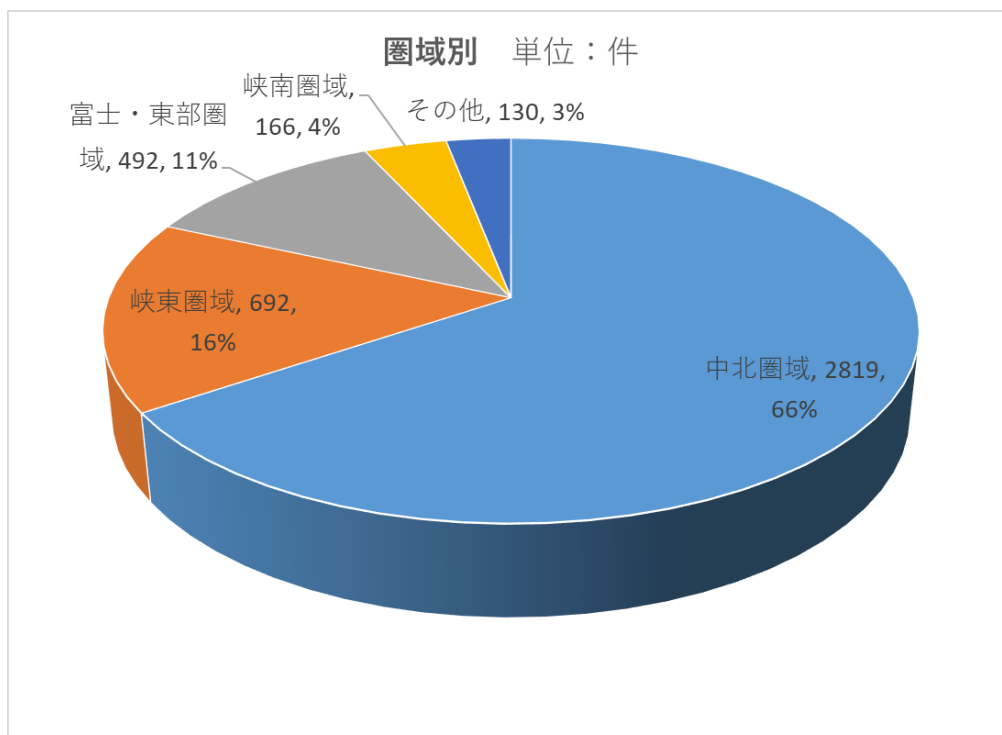
(3) 男女別



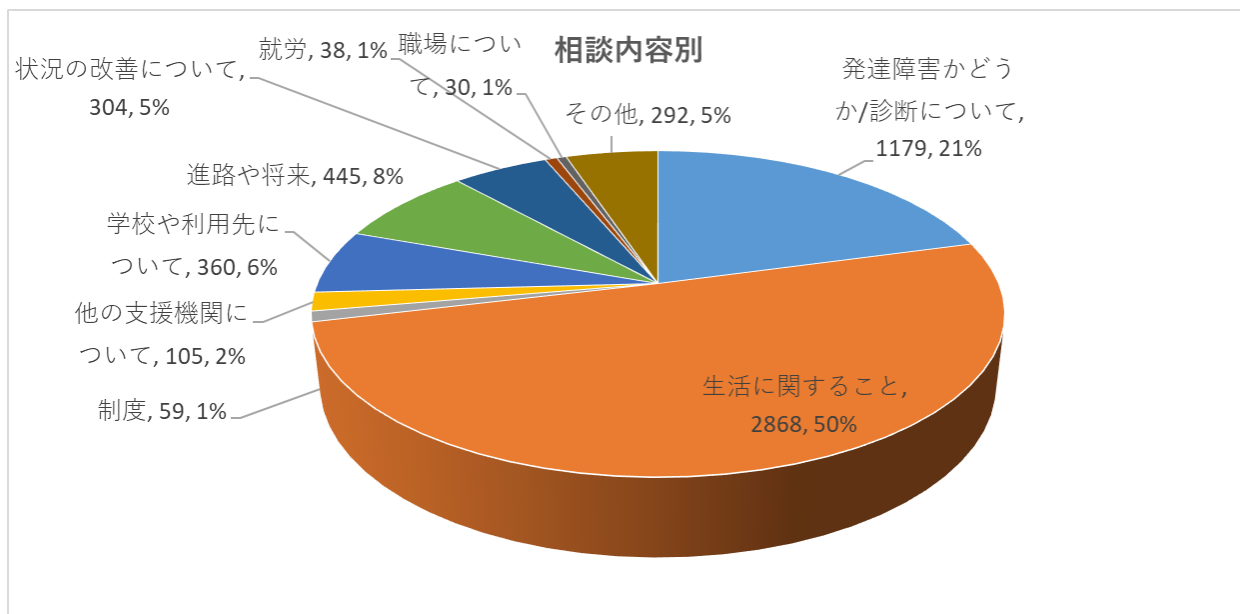
(4) 年齢別



(5) 圏域別

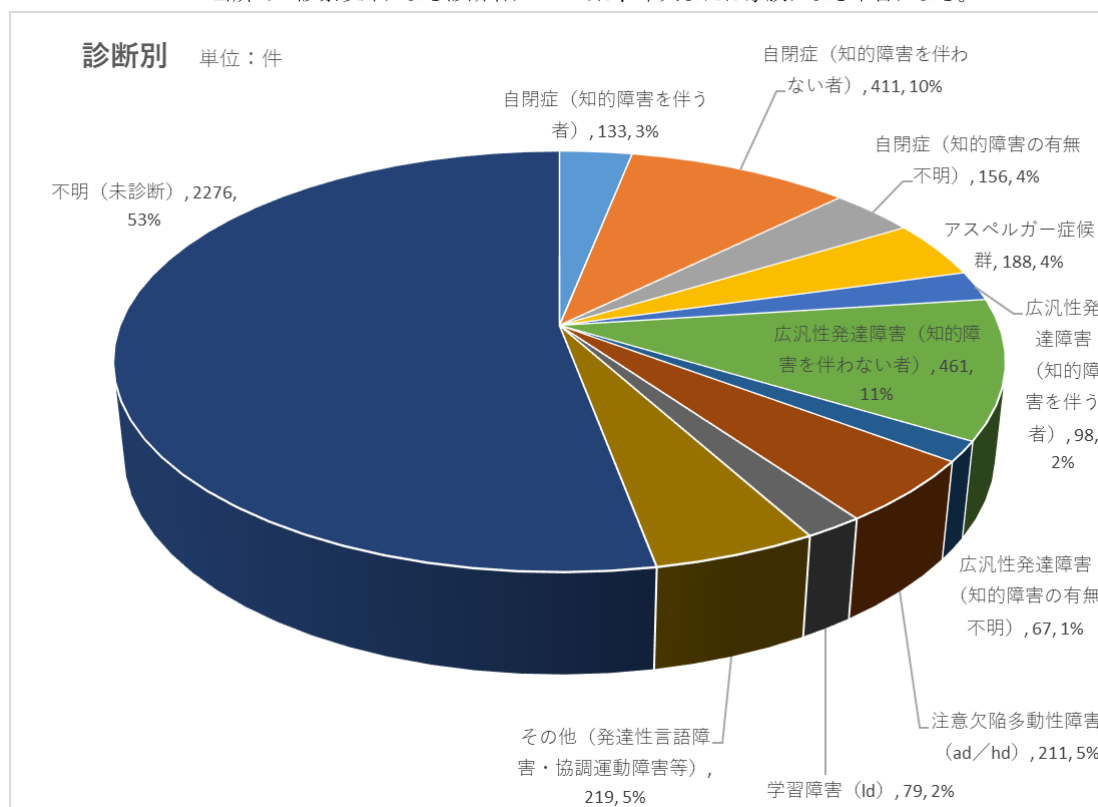


(6) 相談内容別



(7) 診断別

*統計処理に当たって、複数の診断名がある場合には一診断名とし、発達障害の診断を優先した。優先順位は、広汎性発達障害>注意欠如多動性障害>精神遅滞>統合失調症・気分障害>適応障害・摂食障害である。当所での診察以外による診断名については、本人または家族による申告による。

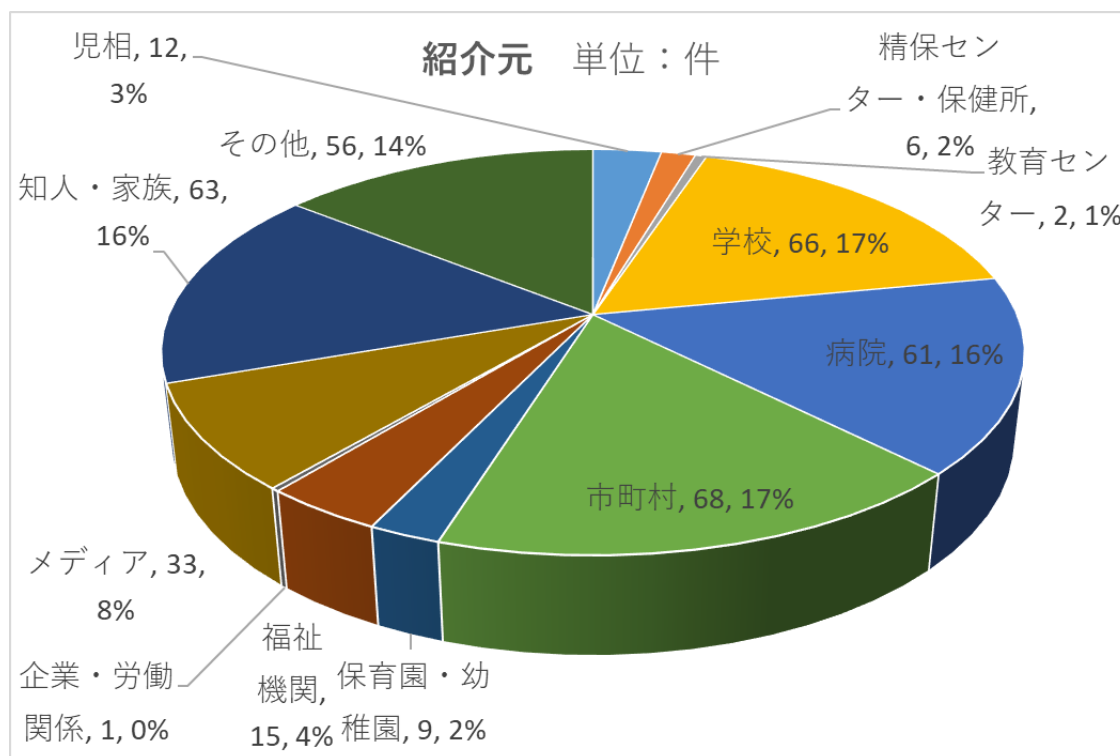


(8) 新規面接相談の内訳

(単位：件)

		合計	ケース別		男女別		年齢別					
			発達障害 ケース	子どものこ ころケース	男	女	0 ～ 3 歳	4 ～ 6 歳	7 ～ 12 歳(小 学生)	13 ～ 15 歳(中 学生)	16 ～ 18 歳	19 歳 以上
令和2年度	甲府	345	279	66	233	112	25	65	152	56	26	21
	都留	32	27	5	28	4	2	10	2	10	0	8
	ふれあい	15	13	2	11	4	0	4	8	3	0	0
	合計	392	319	73	272	120	27	79	162	69	26	29
前年度		219	186	33	150	69	23	56	85	31	6	18

(9) 新規面接相談の紹介元



【都留クリニック】 場 所 南都留合同庁舎 1階（令和元年9月移転）
 管 理 者 金重 紅美子
 診療時間 午前9時30分から午後3時00分

	月	火	水	木	金
精神科					
金重 紅美子		○			

2 診療状況

(1) 受診者総数推移

(単位：件)

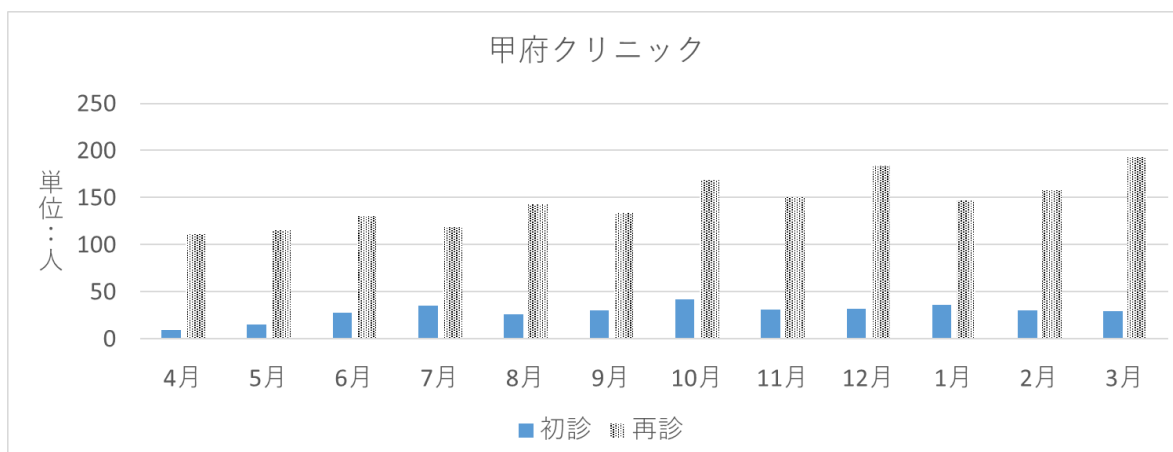
	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
初診	302	218	215	257	198	163	184	346
再診	1,655	1,712	1,877	2,021	2,120	1,977	1,803	2,048
ショートケア	28	22	13	21	28	23	21	62
合計	1,985	1,952	2,105	2,299	2,346	2,163	2,008	2,456

(2) 受診者と診療形態

【甲府クリニック】(ショートケアを除く。)

(単位：件)

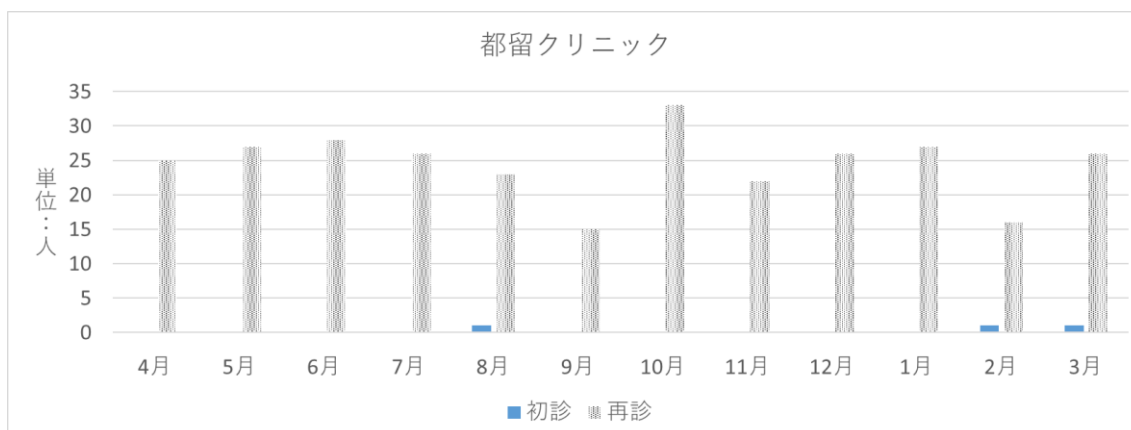
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初診	9	15	28	35	26	30	42	31	32	36	30	29	343
再診	111	115	130	119	143	134	169	150	184	147	158	194	1,754
合計	120	130	158	154	169	164	211	181	216	183	188	223	2,097



【都留クリニック】

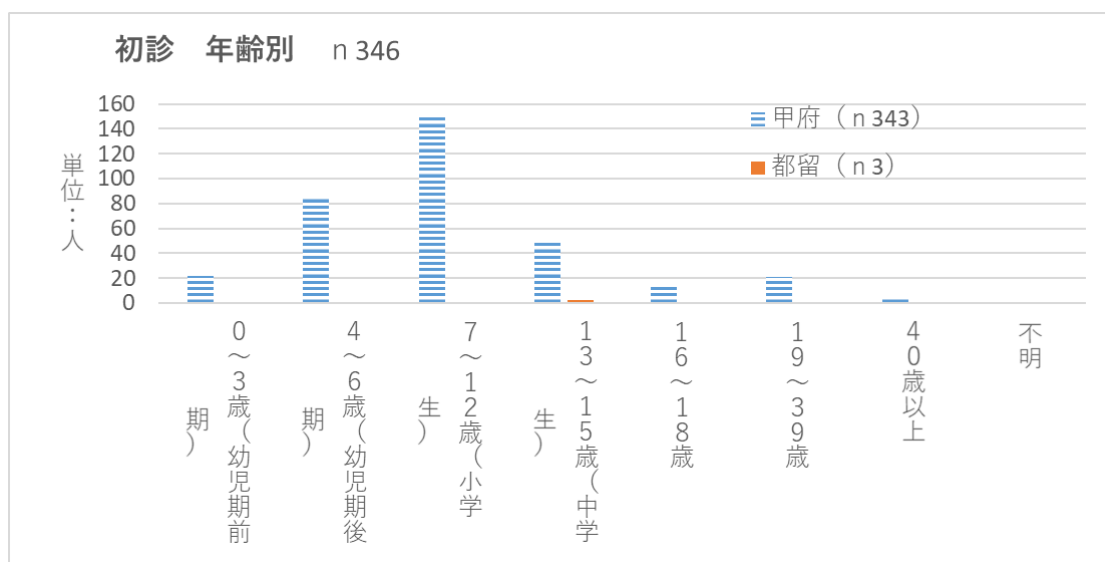
(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
初診	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	3
再診	25	27	28	26	23	15	33	22	26	27	16	26	294
合計	25	27	28	26	24	15	33	22	26	27	17	27	297



(3) 年度初診者の状況

甲府・都留クリニック 年齢帯別内訳



診断分類別割合

(単位：人・%)

		甲府		都留		合計	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
心理的発達の障害 (F8)	広汎性発達障害 (F84)	190	55.4	2	50.0	192	55.5
	学力の特異的発達障害 (F81)	18	5.2	0	0.0	18	5.2
	その他	3	0.9	0	0.0	3	0.9
小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害 (F9)	多動性障害 (F90)	21	6.1	0	0.0	21	6.1
	その他	29	8.5	0	0.0	29	8.4
精神遅滞 [知的障害] (F7)		31	9.0	1	50.0	32	9.2
成人のパーソナリティおよび行動の障害 (F6)		2	0.6	0	0.0	2	0.6
神経症性障害, ストレス関連障害および身体表現性障害 (F4)		19	5.5	0	0.0	19	5.5
統合失調症, 統合失調型障害および妄想性障害 (F2)		2	0.6	0	0.0	2	0.6
気分 (感情) 障害 (F3)		1	0.3	0	0.0	1	0.3
生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 (F5)		5	1.5	0	0.0	5	1.4
診断保留		16	4.7	0	0.0	16	4.6
その他		6	1.7	0	0.0	6	1.7
合計		343	100.0	3	100.0	346	100.0

*統計処理に当たって、複数の診断名がある場合には一診断名とし、発達障害の診断を優先した。

*小数第2位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100%にならない。

3 発達障害医療支援体制整備事業

発達障害の早期把握・早期支援を行うため、発達障害のある子どもが地域で安心して医療を受けることができるよう、こころの発達総合支援センターを中心とした医療ネットワークの構築と地域の小児科医を対象とした人材育成を行った。

【山梨県子どもの発達を考える医療連携会議の開催】

- ・参加者：県内の小児科医 24名
- ・内 容：診療における現状・課題の整理及び共有
症例検討を通じた小児科医の人材育成
診療マニュアルの活用の促進
診療連携パスの運用と評価・見直し
こころの発達総合支援センターを中心とした診療ネットワークの検討
- ・実 績：第1回 令和2年7月8日（水）午後7時～8時45分
第2回 令和2年9月9日（水）午後7時～8時45分
第3回 令和2年11月4日（水）午後7時～8時45分
第4回 令和3年1月13日（水）午後7時～8時45分

【発達障害医療支援体制整備事業研修会の開催】

- ・内 容：「感情の発達について」
- ・講 師：山梨大学大学院総合研究部 教授 相原 正男 氏
- ・日 時：令和3年2月10日（水）午後7時～8時30分
- ・参加者：県内の小児科医、子どものこころサポートプラザ内職員 41名

4 ショートケア

こころの問題や発達特性などを持ち、不登校等社会に適応しにくい状況をきたす対象者に対して、心身の健康維持を図ること、社会生活を営む上で必要な生活技能や適応能力の獲得と向上を図ることを目的として行った。

(1) 対 象

当センター甲府クリニックに通院中で、かつ、医師が必要と認めた者

(2) ねらい

長期的な治療プログラムとして位置づけ、安心して参加できる社会的な場を広げることとそのきっかけづくり

(3) 内 容

本人向けプログラムと家族講座の実施

【本人向けプログラム】

(小学生向けショートケア)

- ・身体プログラム：呼吸法、ストレッチ、ヨガほか
- ・ソーシャルプログラム：創作、季節イベント、ゲーム、コミュニケーションスキルほか

(中・高生向けショートケア)

- ・身体プログラム：呼吸法、ストレッチ、ヨガほか
- ・ソーシャルプログラム：創作、季節イベント、ゲーム、コミュニケーションスキルほか

【家族講座】

(小学生向けショートケア)

- ・テーマ：体調管理（睡眠、栄養、運動）、生活管理（生活設計、家族関係）、将来に向けて（情報収集のしかた、本人との相談の進め方）

【実績】

(単位：回・人)

月 1 回	実施期間	実施回数	人数	延べ人数
第 2 月曜日 13:00～16:00	令和 2 年 8 月～ 令和 3 年 2 月	7	5	25

(中・高生向けショートケア)

- ・テーマ：体調管理（睡眠、栄養、運動）、生活管理（生活設計、家族関係）、将来に向けて（情報収集のしかた、本人との相談の進め方）、
ストレスマネジメント

【実績】

(単位：回・人)

月 1 回	実施期間	実施回数	人数	延べ人数
第 4 月曜日 13:00～16:00	令和 2 年 6 月～ 令和 3 年 2 月	9	6	37

地域支援

1 市町村療育支援開発事業

年齢や障害特性に応じた支援プログラムを開発し、幼児期から成人期までの支援を行った。

(1) 幼児集団療育

子どもが集団活動を通じて良い体験をするとともに、保護者が子どもの発達の特徴を理解し子どもに合った対応方法を知ることや、保護者同士の情報共有等を目的に、幼児集団療育を実施した。併せて、支援プログラムの開発を行うとともに、市町村保健師や保育士・幼稚園教諭等の支援者の見学を受け入れ、研修の場とした。

【こころろグループ】

- ・対 象：当センターに来所している幼児とその保護者で、集団活動に参加希望があり、参加目的を共有でき、見学者の受け入れを了解できる保護者
- ・ねらい：子どもの発達の特徴への気づき及び子育て支援、集団場面における発達評価、市町村モデルのプログラム開発を行う。
- ・内 容：親子参加型療育と親ミーティング
- ・回 数：1クール7回 年3コース
- ・実 績

(単位：回・組)

	実施期間	実施回数	人数 (親子数)	延べ人数 (延べ親子数)
1クール	令和2年8月26日 ～10月14日	7	4	47
2クール	令和3年1月13日 ～3月3日	7	6	62
年長1クール	令和2年6月12日 ～7月31日	7	3	27

【びよんびよんグループ】

- ・対 象：ころころグループに参加した幼児とその保護者で、引き続き参加希望があり、参加目的を共有でき、見学者の受け入れを了解できる保護者。
- ・ねらい：継続的な発達評価と子育て支援、支援機関・者の人材育成
- ・内 容：親子参加型療育と 親ミーティング
- ・回 数：年6回
- ・実 績

	実施期間	実施回数	人数（親子数）	延べ人数 （延べ親子数）
1クール	令和2年9月4日 ～2月19日	6	4	39

【わくわくグループ】

- ・対 象：ころころグループに参加したことのある年長児とその保護者または昨年度わくわくグループに参加した現在小学校1年生の子どもとその保護者
- ・ねらい：就学・就学後の支援
- ・内 容：《交流イベント》保護者の交流会
《短期療育グループ》親ミーティング
- ・実 績 (単位：回・組)

	実施日（期間）	実施回数	人数 （親子数）	延べ人数 （延べ親子数）
交流会	令和2年8月21日	1	6	6
ミーティング (1クール)	令和2年11月4日 ～12月9日	4	4	19

【幼児集団療育への見学受け入れ】

- ・対 象：関係機関職員
- ・ねらい：技術支援
- ・内 容：療育グループの見学参加
- ・実 績 (単位：人)

延人数	主な見学者
12	市町村保健師、学校教員等

(2) 学齢期集団療育

自閉スペクトラムの特性をもつ又は疑いのある児を対象に、特性をもつ同属性集団の仲間関係を経験するとともに、集団の中での心地よい体験や楽しい経験をする機会、主体的に考え行動する機会として行う。また保護者が子どもの特性について理解を深め、子どもに合った対応方法について考え成長の見通しを持ちながら、家庭や学校などの日常生活での対応に活かすことを目的とする。

・対象者：

小学生：当センターにおいて、集団プログラムが必要と認められる小学生（4～6年）とその保護者

中学生：当センターにおいて、集団プログラムが必要と認められる中学生（1～3年）とその保護者

・ねらい：自閉スペクトラムの特性をもつ同属性集団での心地よい仲間関係を経験する機会、楽しい経験をする機会として行う。保護者については子どもの特性について理解を深め、家庭や学校などの日常生活での対応に活かすことを目的とする。

・内 容：集団療育グループ・講義とグループワーク 1コース4回 年1回

・実 績

小学生

実施日	対象	人数 (親子数)
令和2年8月4日	小学生とその保護者	4
令和2年8月11日	小学生とその保護者	4
令和2年8月25日	小学生の保護者	2
令和3年1月5日	小学生とその保護者	4
延べ参加者数(親子数)	小学生とその保護者	14

中学生

実施日	対象	人数 (親子数)
令和2年8月4日	中学生とその保護者	6
令和2年8月11日	中学生とその保護者	6
令和2年8月25日	中学生の保護者	3
令和3年1月5日	中学生とその保護者	6
延べ参加者数(親子数)	中学生とその保護者	21

(3) 成人期集団療育（発達障害者成人期就労準備性向上プログラム）

発達特性を持つ本人たちが就労を目指すにあたり、必要な知識を得たり自己理解を深めたり、同世代の相互交渉を経験したりする場として、講座を実施した。

また、保護者・家族向けと支援者向けにそれぞれ講座を実施し、正しい理解や特性に合った支援について学ぶ場を提供した。

【キャリアプラン講座（高校生対象プログラム、専門学生・大学生プログラム）】

- ・対象：個別相談を継続している高校（特別支援学校を含む）・専門学校・大学在籍の学生

- ・ねらい：就労準備性の向上及び自己理解の促進

- ・内容：講義・グループワーク

- ・実績

（単位：回・人）

実施日	対象	実施回数	参加者数	延べ人数
令和2年8月7日・14日	高校生	2	4	6
令和3年3月1日・8日	専門学生・大学生	2	5	9

【就労定着支援プログラム】

- ・対象：個別相談を継続している在職者

- ・ねらい：余暇時間の対人交流の機会と同属性集団の快体験の場の提供

- ・内容：講義・グループワーク

- ・実績

（単位：回・人）

実施日	対象	実施回数	参加者数	延べ人数
令和3年3月9日	在職者	1	4	4

【就労支援サポートプログラム】

I 保護者セミナー

- ・対象：個別相談を継続している高等学校（特別支援学校を含む）在籍学生の保護者・家族

- ・ねらい：就労準備性を理解し家族として、就労へ向けの支援を考える

- ・内容：講義・情報提供・質疑応答

- ・実績

（単位：回・人）

実施日	実施回数	人数
令和2年9月10日	1	7

II 支援者セミナー

- ・対 象：高等学校において就職支援担当教職員
- ・ねらい：発達障害の理解を深め就労準備性を理解し今後の支援に生かす
- ・内 容：講義・質疑応答
- ・実 績 (単位：回・人)

実施日	実施回数	人数
令和2年12月25日	1	16

(4)ペアレントサポートプログラム

- ・対 象：子ども（小学校低～中学年）のこころの問題や発達障害等で養育上の悩みを抱える保護者及び市町村保健師等で親支援に関わっている者
- ・ねらい：子どもへの理解を深め、自ら問題に対応できる具体的な育児方法を学ぶことにより、子どもとの心地よい関係をつくり、二次的な問題を予防することを目的とする。また、人材育成とペアレントサポートプログラムの開発・検討を行う場として、関係職員への公開の研修も兼ねる。
- ・内 容：子どもの行動分類、問題解決スキル、ストレスマネジメントなどを含むペアワークを取り入れたグループワーク
- ・講 師：ハーティック研究所 代表 高山 恵子 氏
- ・実 績 (単位：人)

実施日	内容	人数	
		保護者	関係職員
令和2年6月17日	子どもとの心地よい関係をつくるために	6	9
令和2年7月15日	コミュニケーションのコツと心が楽になる考え方（アンガーマネジメント）	6	8
令和2年9月9日	気持ちをつたえる伝え方・ふりかえりとセルフトーク	6	9

(5) 養育者セミナー

- ・対 象：幼児～高校生のお子さまの養育者 *原則として2回通して参加出来る方
- ・ねらい：発達特性やこころの育ちについて理解を深めながら、子どもに合った対応方法について考え、家庭や学校などの日常生活での対応に活かすことや親同士で情報の共有を図ること。また、専門職員のスキルアップ研修も兼ねる。
- ・内 容：1セミナーにつき、2回講義。今年度は、10月と3月に実施。
 - 1回目 講演『発達障害のこころの育ち』
講師 山梨県立こころの発達総合支援センター 次長 金重紅美子
 - 2回目 講演 『子どもたちとの日常から』
講師 山梨県立こころの発達総合支援センター 所長 田中 哲
- ・実施日：令和2年10月15日（木）1回目
令和2年10月27日（木）2回目
令和3年3月11日（木）1回目
令和3年3月18日（木）2回目
- ・実 績

(単位：人)

開催日	参加者数
令和2年10月16日	16
令和2年10月27日	15
令和3年3月11日	14
令和3年3月18日	17
延べ数	62

(6) ストレスマネジメント研修

発達障害やこころの問題等特徴を持つ子どもの養育者は、特にストレスを抱えやすく、時には虐待につながったり、養育者の精神疾患を引き起こしたりすることもある。また、養育者のストレスが子どもの発達に影響を与えていることもある。本プログラムではこうした養育者のストレスを低減させ、養育者の安定を図ることにより、子どもの成長が保障されることを目的とする。

- ・対象者：子育て等による何等かのストレスを抱える、幼児から学齢期（中学生まで）の養育者で、参加目的や決まりが共有でき参加可能な方。
- ・ねらい：養育者の自尊感情の回復とストレスの軽減を図ることにより子どもとの関係が安定することを目的とする。ストレスマネジメントプログラムの開発・検討。
- ・内 容：リラクゼーション、講義、グループワークなど
- ・回 数：1コース6回 年1回
- ・実 績

(単位:人)

実施日	内容		人数
	リラクゼーション	学習	
令和2年9月25日	<リラックス体験>呼吸、ボール利用のストレッチ体験・	<講義> 講師 ハーティック研究所 代表 高山恵子氏 「セルフケアの基本～親子で幸せになるために大切なこと～」	4
令和2年10月22日	深呼吸でリラックス	自分らしく生きるために・ハッピーな時を長くしましょう	3
令和2年11月26日	ストレッチでリラックス	子育てストレスを減らすヒント	2
令和2年12月24日	アロマでリラックス	プラスのシナリオ・セルフトーク	3
令和3年1月28日	身近な物でリフレッシュ	アンガーマネジメント	4
令和3年2月25日	<講義> 講師 ハーティック研究所 代表 高山恵子氏 セルフケアの基本（ふりかえり）		4
延べ参加者数			20

(7) 発達支援リーダー養成プログラム（発達支援リーダー養成研修）

地域における発達支援体制の充実を目指し、当センターにおける間接支援強化の取り組みとして、新規プログラムとして実施した。

- ・対象：発達障害に関する支援を中心に担っている（担うことが想定される）次の①～③の職員で希望する者
 - ① 市町村の母子保健または児童福祉または障害福祉を主管する課の職員
 - ② 障害児（者）地域療育等支援事業所の地域療育コーディネーター
 - ③ 特別支援学校の特別支援教育コーディネーター

- ・ねらい：ライフステージを通じた発達障害の基礎知識や支援技術、地域連携等について学び、地域において発達支援業務の中核を担い、関係部署との連携や体制づくりに貢献できる人材の育成

- ・内容：当センターが持つ知識や技術等を概ね6ヶ月間において提供する。所長をはじめ職員による講義や各種プログラム等を見学してもらうスタイルとし、基本研修6回に選択研修（一人が5回程度）を組み合わせ実施した。

- ・実績：受講者13名
 - 基本研修として、心の育ちや子どもの発達支援、地域づくりに関する講義、発達障害者施策や当センター業務概要の説明、支援課題の明確化と今後の体制づくりを考えるグループ討議等を提供。
 - 選択研修として、診察同席や各年齢帯の集団療育プログラム、症例検討への参加、ライフステージに応じた発達支援に関する講義等を提供。

I 基本研修（必須）

実施日	内容
令和2年10月14日	開講式、オリエンテーション、 講義「こころの育ちとその支援」 所長 田中 哲
令和2年11月5日	講義①「子どもの発達支援Ⅰ」 次長 金重 紅美子 講義②「子どもの発達支援Ⅱ」
令和2年11月18日	講義③「発達障害と地域支援」 信州大学医学部教授 医師 本田 秀夫 氏
令和2年12月17日	講義④「子どもの発達支援Ⅲ」 次長 金重 紅美子 講義⑤「子どもの発達支援Ⅳ」
令和3年1月18日	講義⑥「発達障害者施策と当センター業務の概要」 スタッフ グループ討議オリエンテーション
令和3年3月10日	グループ討議・発表

II 選択研修

- ・ 診察同席
- ・ インテークカンファレンス見学
- ・ 幼児集団療育プログラム（ころころグループ）見学
- ・ 幼児集団療育プログラム（わくわくグループ）見学
- ・ 小学生グループ見学
- ・ 中学生グループ見学
- ・ 大学生グループ見学
- ・ 講義 「当センターにおける医療支援」
- ・ 講義 「心理検査の目的、内容、見方」
- ・ 講義 「幼児期の発達支援」
- ・ 講義 「学齢期の発達支援」
- ・ 講義 「成人期の発達支援」
- ・ 症例検討見学

2 技術支援

(1) 関係者コンサルテーション

医療、保健、福祉、教育、就労等の支援関係者への助言やコンサルテーション等を通じて、地域の環境調整や技術支援を行った。

(単位：件)

関係機関別									合計
保育所・幼稚園	小・中・高等学校	特別支援学校	専門学校・大学	入所・通所施設 福祉関係機関	就労関係機関	行政機関	企業	その他	
18	130	9	12	71	52	148	4	6	450

※その他は、医療機関、団体等

(2) 市町村療育支援

コロナ感染予防のため、母子保健従事者研修会（子育て政策課主催）が開催されなかったため、参加実績なし。

(3) 発達障害者支援センター連絡協議会

地域の発達障害児（者）に対する総合的なサービスを提供するため、関係機関（医療・保健・教育・福祉等）の取り組みや課題を共有し、効果的な連携等のあり方について協議した。

開催日	参加機関	協議事項
令和2年10月27日	36 機関	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年度事業報告及び新体制と業務内容について 施設見学

*新型コロナウイルス感染拡大防止のため、市町村へは訪問や来所にて個別で対応。

就労関係機関については就労支援定例会議と併せて実施。

(4) 地域支援体制サポート事業

発達障害者地域支援マネージャーを配置し、市町村、保育所、学校、障害者相談支援事業所等が発達障害（児）者の特性に沿った支援ができるよう、地域支援機能の強化を図った。

【発達障害者支援検討会議への参加】

各保健福祉事務所と連携し、圏域内の支援体制の整備を図るため、圏域やモデル市町村開催の会議に出席した。また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、資料送付により開催に替えた地域、新型コロナウイルス感染拡大防止のために延期した地域に対して技術支援を行った。

開催日	会議名
令和2年12月21日	峡東地域発達障害者支援検討会議（オンライン開催）
令和3年1月26日	峡南地域発達障害児連携支援研修会（オンライン開催）
—	富士・東部圏域発達障害者支援検討会議 *1
—	中北地域発達障害者支援検討会議 *2

*1 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、資料送付により開催に替える

*2 新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期

【発達障害者サポーターの養成・派遣】

- ・目的：学校不適應などにより社会参加できていない発達障害のある人に対し、「発達障害者サポーター」を派遣し、社会参加・就労準備の機会を作る。
- ・サポーター養成対象者：山梨県内の教育、福祉、心理などを専攻している短大大学、大学院生、または社会人で障害福祉に関して一定レベルの知識・理解を有している者
- ・サポーター派遣対象者：こころの発達総合支援センターの相談者で、相談相手を必要としている思春期から青年期ケースで当事業の必要性が認められる者
- ・実績：サポーター養成（県内の教育、福祉などを専攻している大学生等）
新規 14人（大学生14／男性1、女性13）
継続 3人（大学生3／男性1、女性2）

研修

(単位：人)

開催日	内容	講師	人数
令和2年 11月5日	「サポーター養成基礎研修」 ・講義「子どもの育ちと発達障害」 ・発達障害者サポーター事業について	こころの発達総合支援センター 次長 金重 紅美子	13
令和2年 2月8日	「サポーター事業説明会、見学会」	こころの発達総合支援センター 地域支援課 鱒 文香	24
令和3年 3月4日	「サポーター養成事例検討会」 ・サポーター2名による事例発表 ・講師によるスーパーバイス	スーパーバイザー 心理臨床オフィス・ルーエ 深沢 孝之 氏	2

サポーター派遣

当センターの学齡期後期から青年期ケース 5人

(5) 関係機関との連絡調整会議

当センター主催の会議において、情報交換や事例検討を行った。

【総合教育センター特別支援教育部との連絡調整・支援検討会議】

開催日	内容
令和2年5月12日	コロナ感染予防のため中止、紙面開催
令和2年7月14日	所属概要について情報交換
令和2年10月6日	発達障害児(LD)への支援に関する講義と事例検討
令和3年2月9日	コロナ感染予防のため中止、紙面開催

【就労支援関係機関との相談・支援定例会議】

開催日	参加機関	内容
令和2年10月7日	16機関	(1) 講義 令和元年度事業報告並びに新体制と業務内容について (2) 情報交換・協議 ・各機関より ・協議

【子どもの心の診療に関わる医療と福祉の連携会議】

開催日	参加機関	内容
令和2年11月27日	6機関	情報交換と連絡調整
令和3年2月26日	7機関	情報交換と連絡調整

(6) 会議等への参加

【教育関係】

教育機関関係者との事例検討等を踏まえた連携会議は、年間を通じて随時行われ、それぞれの担当者が出席した。

【学習障害等のある児童生徒への支援体制強化事業】 今年度で終了

開催日	内 容
令和2年5月27日	コロナ感染予防のため中止、紙面開催
令和2年7月22日	LDのための教材開発部会・リーフレットの作成
令和2年9月24日	LDのための教材開発部会・リーフレットの作成
令和2年1月14日	LDのための教材開発部会・リーフレットの作成
令和3年2月19日	コロナ感染予防のため中止、紙面開催

【就労関係】

コロナ感染予防のため会議が中止となったため、参加実績なし。

【医療関係】

「子どもの心の診療ネットワーク事業」の会議に出席した。

開催日	会議名
令和2年9月11日	第19回 子どもの心の診療ネットワーク事業連絡会議

【発達障害者支援センター関係】

全国及び関東ブロックの会議や役員会等に出席した。

平成30年度～令和2年8月までは、関東ブロック幹事県として、ブロック運営事務および役員会への参加、ブロック会議の企画運営を行った。

開催日	会議名
令和2年6月（書面議決）	発達障害者支援センター全国連絡協議会総会
令和2年7月17日 （オンライン）	発達障害者支援センター全国連絡協議会臨時役員会
令和2年8月（書面会議）	第1回発達障害者支援センター関東ブロック連絡会
令和2年10月23・24日 （オンライン）	発達障害者支援センター全国連絡協議会実務者研修
令和2年12月（書面会議）	第2回発達障害者支援センター関東ブロック連絡会
令和3年2月9日 （オンライン）	第3回発達障害者支援センター関東ブロック連絡会

研修・普及

1 人材育成

(1) 子どもの心の診療関係者の研修事業

【診療対応力向上研修】(小児科医や精神科医等専門職を対象)

(単位：人)

開催日	内容	講師	人数
令和2年12月9日	発達障害児等の諸問題に対しての支援の実際について	多摩の森綜合法律事務所 弁護士 中田 雅久 氏	22
令和3年3月10日	ゲーム障害の基礎知識と北病院の取り組み	山梨県立北病院 医師 山下 徹 氏	15

【子どもの心の総合支援研修】(子どもの心の診療に関わる専門職を対象)

(単位：人)

開催日	内容	講師	人数
令和2年12月9日	発達障害児等の諸問題に対しての支援の実際について 子どもの権利を守るために	多摩の森綜合法律事務所 弁護士 中田 雅久 氏	29
令和3年3月11日	子どものコロナ不安への対応について	こころの発達総合支援センター 所長 田中 哲	20

【児童思春期精神医学専門研修】(精神科医、関係専門職を対象)

・児童精神医学セミナー

月2回程度、こころの発達総合支援センター内で開催した。

内容は、児童精神医学や発達障害に関する研修および症例検討会(所長によるスーパーバイズ)。うち数回は外部から講師を招いて行った。

・臨床研修、事業見学受け入れ

医学部学生、臨床研修医並びに小児科医の研修を受け入れた。

山梨大学医学部4年生：1名 3回/年

山梨県立中央病院研修医：2名 2回/年

山梨大学医学部小児科：1名 不定期 数回程度

【家族支援研修会】

(単位：人)

開催日	内容	講師	人数
令和2年9月9日	講義・質疑応答 「効果的な支援の順序を 考える～神経心理ピラミ ッドを中心に～」	ハーティック研究所 代表 高山 恵子 氏	35

(2) 発達障害研修事業（発達障害児者の支援に関わる専門職を対象）

【発達障害基礎研修（オンラインライブ研修）】

(単位：機関)

開催日	内容	講師	数
令和3年1月27日	講義・質疑応答 「子どものことばの育ち・ 育てる視点」	上智大学言語聴覚研究セ ンター 准教授 原 恵子 氏	29

【発達障害専門研修】

(単位：人)

開催日	内容	講師	人数
令和2年12月23日	講義・質疑応答 「症例検討（当センター で関わっている困難事例 のアセスメント・支援）」	一般社団法人日本発達障 害ネットワーク理事長 医師 市川 宏伸 氏	26
令和3年2月24日	講義・質疑応答（オンライ ンライブ研修）「強度行動 障害と対応」	一般社団法人日本発達障 害ネットワーク理事長 医師 市川 宏伸 氏	40

【発達障害就労支援研修】

(単位：人)

開催日	内容	講師	人数
令和2年11月20日	講義・質疑応答 「発達障害者への就労支 援の現状と今後の課題～ 気づきをサポートする・ 個々の特性を伝える支援 の取組のご紹介～」	山梨障害者職業センター 主任障害者職業カウンセ ラー 古野 素子 氏	39

(3) 講師派遣

関係機関からの講師依頼を受け、当センタースタッフの派遣、又は、当センターにおける講義を実施した。

(単位：箇所・人) ※延べ人数

分野	依頼元・派遣先	内容	形態	講師の職種	実施日	人数
教育	県立特別支援学校うぐいすの杜学園 外1	児童心理治療施設における総合環境療法など	派遣	医師	R2. 6. 4 R2. 6. 29	40
	県教育委員会(病弱支援連携協議会)	精神科的な問題を抱えた子どもと教育	派遣	医師	R2. 7. 31	40
	甲府市教育委員会	発達障害のある子どもの理解とその支援	派遣	医師	R2. 8. 20	60
	県総合教育センター	自閉症スペクトラム障害の理解と支援	派遣	医師	R2. 8. 20	62
	中巨摩公立中学校運営研究会	こころの発達総合支援センターの概要と教育との連携について	当センターにて講義	保健師	R2. 8. 4	50
	峡北地区教育支援協議会・推進委員会	こころの発達総合支援センターの概要と教育との連携について	当センターにて講義	保健師	R2. 10. 13	27
保健	西桂町	こころの発達総合支援センターの概要と教育との連携について	当センターにて講義	保健師	R2. 12. 18	3
医療	—	—	—	—	—	—
福祉	南アルプス市	こころの育ちとその支援	派遣	医師	R3. 1. 28	50
	県主任児童委員研修会	子どものこころを地域で育む	派遣	医師	R3. 2. 25	80
	民生委員協議会(甲府市・甲斐市)	発達障害や子どものこころに関する支援、発達障害と支援について	当センターにて講義	保健師	R2. 9. 29 R2. 10. 6 R2. 11. 17	47
	就業支援センター	就労準備性についての研修	派遣	社会福祉士	R2. 10. 16	8
その他	警察学校	発達障害の基本的理解と対応について	派遣	精神保健福祉士	R2. 11. 26	20
	山梨障害者職業センター・ポリテクセンター	「発達障害の特性を踏まえた支援を行うために知っておきたいこと	派遣	社会福祉士	R2. 10. 29	22
				合計		509

2 調査研究

「令和2年度山梨県社会福祉研究発表会」において、次のテーマに関する調査研究を行い発表した。

○こころの発達総合支援センターに来所する子どものマスク着用の実態

センターに来所する年少から小学6年生の保護者を対象に、アンケート調査及び聞き取りを行った。発達特性やこころの問題のある子どもが、マスク着用が困難な場合があることを周知し、周囲の理解を促していく必要があることやマスク着用の工夫について保護者と共有するとともに、子どもの状態に応じて感染予防対策を検討していくことが大切であることを見いだすことができた。

○発達特性やこころの問題のある児の養育者支援

～ストレスマネジメントを通して～

養育者のストレスマネジメントに重点を置いたプログラムの開発から実施を通して、養育者のセルフケアやストレスに働きかけることで、ストレスに関する気づきや自己の承認、子育てに関するスキルの獲得等、支援の有効性が示唆されたため、報告した。

:

3 広報・普及

(1) パンフレット等印刷物の発行

こころの発達総合支援センターのパンフレットを作成し、各関係機関や研修等の機会に配布した。

また、こころの発達総合支援センターのホームページの利用に関する案内や一般向けの研修案内、マニュアル（こどもの精神発達に関する診療マニュアル、幼児健診項目の考え方と発達段階表、就労準備性と発達障害・精神障害）、令和2年度業務概要等を掲載した。

(2) 図書及び視聴覚教材の貸出

【図書】

平成23年4月より、主に保護者や関係機関の職員、学生等を対象に図書の貸し出しを行っている。

全蔵書数は686冊であり、令和2年度の貸出実績は延べ11冊であった。

(単位：冊)

1分類	概論・事典・法律	139
2分類	支援・指導・教育	242
3分類	就労	8
4分類	心理・アセスメント・診断	65
5分類	雑誌4種	32
6分類	その他1	34
7分類	その他2	149
都留クリニック		17
合計		686

月別貸出数

(単位：冊)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1	0	3	0	0	0	2	0	0	2	0	3	11

【視聴覚教材】

発達障害関連DVD 14本